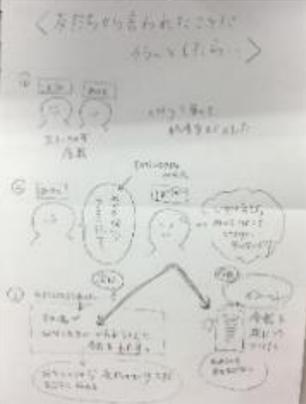


校種 (学級種別)	小学校 (自閉症・情緒障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童 生徒の実態	<p>○意見が通らないときや、できなかつたときに怒りの感情が爆発し、自らを叩いたり、他者を傷つけたりしてしまう。</p> <p>○騒がしい環境や、見通しが持ちにくいものに対しての不安が大きく、集団で過ごす際に、イライラして大きな声をあげたり、物を投げたりする。(昨年度、交流学級の授業にはほとんど行けなかつた。)</p> <p>○相手の意図や感情を理解する力が乏しく、人間関係を築いていくことが難しい。</p>	目標・指導内容	<p>【目標】</p> <p>○自分に合ったクールダウンの方法を見つけたり、先のことを予想して目標を立てたりすることで、集団の中で適切に行動することができる。</p> <p>【指導内容】</p> <p>○人間関係の形成</p>
指導の経過・工夫点・子どもの変容	<p>【見通しをもつ・予想する】</p> <p>自分でマグネットを貼り替えて1日の流れを確認し見通しを持つ。</p>   <p>自分の気持ちと相談し、「○時間目は何分間行けそう」「前半の活動は行けそう」など、自分で行ける時間を設定する。</p> <p>支援学級に戻るときはカードをおいてくる。</p> <p style="text-align: right;">+の感情</p>		
✕	1時間授業に出れなかつた(怒ってしまった…)	○	○分間みんなとがんばれた！楽しかった！
	<p>行事の際には、「こういうことが起きるかもしれない」を一緒に考えて見通しと予想をたて、「そのときはこうすればいい」を一緒に考える。</p>	<p>①声の大きさがきついな～ イライラ →先生の肩をトントントン (3回) その場から一度はなれて、また活動にもどううね！</p> <p>②説明がよくわからないな… イライラ →先生の肩をトントントン (3回) 大声✕ 物投げ✕ ☆肩をトントントンしてくれたら、後から先生がもう一度説明するからね！</p>	<p>九重宿泊学習</p>
	【クールダウン】	✕	○
失敗 解決方法を考える	 <p>図式化して、「今回の方法だと、どうなったか」「どの方法なら次回やれそうか」を自分で決めて、「イライラの感情が出てきても、選択したクールダウンができたときは、一緒に喜ぶ」の繰り返しを行った。</p>	成功体験にする クールダウンの引き出しを増やす	<p>【例】給食時間、準備中のため放送が聞こえづらいことにイライラして、叫ぶ、椅子を振り回す。 【解決策】ろうかに出て、聞きたいところを聞いたたら、また戻る。</p>
成果と課題・今後の方向	見通しをもって、予想することで、その時にどうすればよいのかを自分で考えておくことができるので、実践できることが多くなり、すべての教科や行事に少しずつでも参加できるようになった。本人も「はじめてみんなと○○できた。」「今日がんばってるよね、僕」と、成功体験を積むことで自分の頑張りに気づくことができている。「イライラするけどまだ活動を続けたい」という気持ちがある時に、叫んだり物を投げたりしてしまうことがまだあるので、やりたくてもイライラが大きくなる前にクールダウンをする練習を今後も行っていきたい。		